

「V+着」と〈V+テイル〉の対照研究(十一)

時 衛国

要 約

本研究从对比语言学的角度对汉语的“着”和日语的〈テイル〉进行考察，重点分析二者与动词同形词的关系、二者描写动态和静态时的用法及其与否定形式的关系，以此阐明二者的相同点和不同点。“着”可以把握动词同形词，表示动态和静态，但有局限性，不能表示动态结果的持续。借助于副词修饰语可以描写多样的持续状态，呈现动作与结果的二重性。可以用于状态持续的否定，还可以同于劝诱，但不能表示否定变化的持续或否定状态的持续。〈テイル〉在语法上具有很广的视野，可以与各种意义的动词同形词共现，可以用于各种语法形式。对于具有二重性的动词，可以根据副词修饰语的意义，单独描写正在进行的动态和已经实现的静态，可以用来表示否定变化的持续及否定状态的持续。

Keywords : 動詞の同形語 動的状態 静的状態 二重性 否定形式

1. はじめに

本研究は、中国語の“V+着”と日本語の〈V+テイル〉¹⁾の文法的機能などについて、動詞の同形語との関係、動作や結果の二重性及び否定形式との関係を中心に考察しようとするものである。

「V+着」と〈V+テイル〉にはどのような共通点と相違点を持っているのか。以下の三つの課題を中心に取り上げることとする。

一、“着”と〈テイル〉は、動詞の同形語による運動と変化の持続について、それぞれどのように用いられ、どのような文法的特徴を持っているのか。そ

の意味と用法について深く考察する。

二、一部の動詞については、文法上の二重性があるため、動的状態と静的状態のいずれも副詞の修飾語によって表現することができる。“着”と<テイル>は、それぞれの状態についてどのように使われているのか、その文法的性格について分析することとする。

三、否定形式と共起する場合、“着”と<テイル>は、どのような文法的機能を持っているのか、どのような制限を受けているのか、それは何故なのか。その文法機能の本質について考察する。

本研究は上記の課題について考察することにより、両言語の共通点と相違点を究明したいと考えている。

2. 先行研究

“着”については、李临定（1985・1986）、陈平（1988）、徐丹（1992）、菅谷有子（1996）、刘一之（2001）、金立鑫（2004）、王学群（2007）、高橋弥守彦（2007）、张黎（2012）、三宅登之（2013）などの研究があるが、本研究のテーマに関する研究は少ないようである²⁾。戴耀晶（1997）、费春元（1992）などは、本研究における文法上の二重性のある動詞については触れているが、さらに検討することも必要だと考えている。ともかく、上記の先行研究を踏まえ、更に追究すべきだと考えている。

<テイル>については、金田一春彦（1950）、奥田靖雄（1977）、寺村秀夫（1982）、工藤真由美（1995）、中畠孝幸（1999）などの研究がある。また、文法上の二重性のある動詞については、工藤真由美（1982）、仁田義雄（1982）は触れているが、あまり詳しく述べられていない。この問題については、もう少し深く考察する必要があると考えている。

3. 分析

3. 1. 動詞の同形語との関係

3. 1. 1. “着”

“着”は“沸腾（沸腾する）”“存在（存在する）”“飞行（飛行する）”“暗

示（暗示する）”“保存（保存する）”“陈列（陳列する）”“改造（改造する）”
“航行（航行する）”“供应（供給する）”“活跃（活躍する）”“充满（充滿する）”
“忍耐（堪え忍ぶ）”などの動詞を修飾することができる。たとえば、

- (1) 热水沸騰着。(湯が沸騰している)
- (2) 社会上存在着各种问题。(社会には様々な問題が存在している)

“着”は(1)では、“沸騰（沸騰する）”を修飾し、湯が沸騰していることを表現している。(2)では“存在（存在する）”を修飾し、問題が存在していることを表現している。

“沸騰（沸騰する）”“飞行（飛行する）”“改造（改造する）”“航行（航行する）”“活跃（活躍する）”などは、動的状態を表わす動詞であり、人間やモノが運動したり変化したりすることを表わしている。いずれも表面に動きが現れる動詞として用いられている。“着”はこの種類の動詞を修飾する場合、その動的状態が運動したり変化したりしていることを表わし、その変動の様子を描写している。この場合は、“着”の動的状態把握の用法と考えられる。即ち、“着”は運動している動作（動的状態）を表現するための文法的機能を発揮している。

一方、“存在（存在する）”“保存（保存する）”“陈列（陳列する）”“暗示（暗示する）”“供给（供給する）”“充满（充滿する）”“忍耐（忍耐する）”などは、静的状態を表わす動詞であり、人間やモノが静止したり存在したりすることを表わしている。これらはいずれも表面に動きが現れない動詞として用いられている。上述の“沸騰（沸騰する）”“飞行（飛行する）”などのような表面にその動きが現れる動詞とは対照的である。“着”はこの種類の動詞を修飾する場合は、その静的状態が存在することを表わし、その不動の様子を描写している。これは“着”の静的状態把握の用法だと言える。“着”はこの中で、変動しない静的状態を表現するための文法的機能を発揮しているものと考えられる。

このように、“着”は、様々な状態の描写の機能が付与されているため、こ

これらの二文字の動詞による動的状態と静的状態のいずれも表現することができる。ところが、“着”は下記の動詞を修飾することができない。たとえば、

(3) *这本小说从英语翻译着。(「この小説は英語から翻訳している」の意)

“着”は動的状態の結果を表現することができないため、このような構造には用いることができない。“翻译(翻訳する)”などのような動詞は、“他正翻译着巴尔扎克的作品(彼はバルザックの作品を翻訳している)(孟琮 郑怀德 孟庆海 蔡文兰编《动词用法词典》上海辞书出版社 P250)”のように、“着”と共に起することができる。ただ、(3)のような文法構造には用いることができない。中国語では、(3)の場合は、“这本小说是从英语翻译过来的(この小説は英語から翻訳している)”のように表現することができる。“着”はこのような用法を有していないため、この場合は用いることができないのである。

“翻译(翻訳する)”と類似した動詞には、また“创作(創作する)”“发明(発明する)”“反映(反映する)”“继承(継承する)”“坚持(堅持する)”“奖励(奨励する)”“开拓(開拓する)”“批判(批判する)”などがある。これらの動詞は、(3)のような文法構造に用いることができないという点では共通している。“着”は動的状態の持続と静的状態の持続は表現できるが、動的状態の結果は表現できないものと考えられる。

3. 1. 2. <テイル>

<テイル>は、動的状態と静的状態をいずれも修飾することができるという点では、“着”と共通している。たとえば、

(4) 湯が沸騰している。

(5) 様々な問題が存在している。

(6) この本は英語から日本語に翻訳している。

<テイル>は(4)では、湯が沸いていること、そして、(5)では様々な問題が存在していることを表わしている。(6)では、翻訳したという行為の結

果として、その静的状態を表わしている。

日本語では「沸騰する」「飛行する」「改造する」「航行する」「活躍する」などは、いずれも動きが表面に現れる動詞として、動的状態の表現に用いられている。そして、〈テイル〉はその動的状態を描写し、その動作や行為が変動していることを表わすことになる。

一方、「存在する」「保存する」「陳列する」「暗示する」「供給する」「充滿する」「忍耐する」などは、動きが表面に現れない動詞として、静止している状態を表わしている。〈テイル〉は、その静止している状態を描写することになる。

「創作する」「発明する」「反映する」「継承する」「堅持する」「奨励する」「開拓する」「批判する」などは、動的状態とも静的状態とも言えぬ行為を表わす動詞であるが、〈テイル〉はそのいずれも修飾することができる。

たとえば、(6) の場合は、動的状態の側面はあるが、すでに日本語に訳されているという意味もあるため、静的状態を表わすという側面もある。即ち、〈テイル〉は翻訳という行為の持続も、その行為の結果の持続も表現することができる。この点では“着”と違っている。

“着”は“現在正翻译着小说（現在小説を翻訳しているところだ）”のように、その動的状態を表わすことはできるが、その結果の持続については表現できないという点では、〈テイル〉と対照的である。〈テイル〉はその動作の持続もその動作の結果の持続も描写することができるのに対し、“着”はその動作の結果を描写することができない。

3. 2. 文法上の二重性

3. 2. 1. “着”

中国語では、“穿（着る・穿く）”“戴（かぶる）”“挂（掛ける）”“套（かぶせる）”“系（締める）”“晾（晒す）”“捏（摘まむ）”“罩（覆う）”“披（羽織る）”などの動詞は、“着”と共に起る場合は、動的状態と静的状態をいずれも表現することができる。たとえば、

(7) 他穿着和服。(彼は和服を着ている)

(8) 他急急忙忙地穿着和服。(彼は慌てて和服を着ている)

(9) 他总是穿着和服。(彼はいつも和服を着ている)

“着”は(7)では、発話時点において、彼が和服を着ているところだという動的状態の意味と、彼がすでに和服を着用しているという静的状態の意味を表わしている。というのは、“穿(着る・穿く)”のような種類の動詞は、動作そのものを表わすという側面と、その動作による結果を表わすという側面があるからである。いわゆる文法上の二重性があるということである。そのため、動的状態を表わすのか、静的状態を表わすのかははっきりせず、文脈によって判断することになる。

(8)では、“急急忙忙地(慌てて)”という修飾語が用いられているため、慌ただしく着用しているという動的状態を表わしている。つまり、“急急忙忙地(慌てて)”という修飾語は、“穿(着る・穿く)”という動的状態を修飾し、その動作・行為の側面を著しく規制しているものと考えられる。それで、(8)の場合、“着”は、彼が着用しているという動作過程について、その動作が持続している最中だということを表わしている。一方、(9)の場合、“着”は、“总是(いつも)”という修飾語が用いられており、どんな場合でもという意味を表わしているため、着用しているという動作過程ではなく、身につけているという静的状態を表現しているものと考えられる。

“急急忙忙地(慌てて)”のような修飾語は、他に“静静地(静かに)”“慢慢地(ゆっくり)”“悄悄地(ひそかに)”“匆忙地(慌ただしく)”“慌慌张张地(慌てて)”などが挙げられる。これらの修飾語は“穿(着る・穿く)”のような動詞を修飾する場合、その動的状態を表わしているため、“着”はその動的状態を描写することになる。それに対し、“总是(いつも)”のような修飾語は、他に“经常(常に)”“时常(時々)”“常常(よく)”“老是(しょっちゅう)”“一直(ずっと)”“一贯(一貫して)”“始终(一貫して)”などがある。これらの副詞は、修飾語として“穿(着る・穿く)”のような動詞を修飾する場合は、その静的状態を表わしているため、“着”はその静的状態を描写することになる。

“穿(着る・穿く)”のような種類の動詞については、戴耀晶(1997)では、この種類の動詞は動的状態も静的状態も表わすことができるため、“着”と共

起する場合は、二重性がある。この二重性は他の語句の影響はあるが、動詞の意味によるところが大きいと考えられる。能動表現の場合は、その動的側面が強いが、存在表現の場合はその静的側面が強いと述べている（同 P90）。王学群（2007）、費春元（1992）³⁾なども触れている。ただし、修飾語⁴⁾による二重性の喚起という点については、上記のどの研究においても述べられていない。

“穿（着る・穿く）”のような種類の動詞は、他の成分の影響も考えられるし、能動表現か存在表現によるところも大きいと認められるが、修飾語の有無や修飾語の種類によるその動的状態修飾の機能と静的状態修飾の機能の発揮は、意味表現にも大きな影響をもたらしている。“着”もその各々の状態に対し、それぞれ異なった文法的機能を果たすことになる。この点では、“穿（着る・穿く）”のような種類の動詞は、他の動詞と異なった文法的性格を持っていると言えよう。そして、“着”はその動詞の意味によって、動的状態把握の機能と静的状態把握の機能をそれぞれ果たすことになるのである。

3. 2. 2. <テイル>

「着る」「穿く」「かぶる」「まとう」「脱ぐ」「着替える」「掛ける」「かぶせる」「羽織る」などの動詞は、動的状態を表わす意味と静的状態を表わす意味を持っている。それだけでは、静的状態を表わすことが多いが、他の修飾語を受け入れる場合は、静的状態はもとより、動的状態をも表わすことになる。なぜなら、修飾語⁵⁾は、その動的状態か、静的状態の意味を規制することができるからである。たとえば、

- (10) 彼は和服を着ている。
- (11) 彼は慌てて和服を着ている。
- (12) 彼はいつも和服を着ている。

<テイル>は（10）では、和服を着用している最中というより、すでに和服を着用しているという静的状態を表わしている。（11）では、「慌てて」という修飾語があり、慌ただしい様子を表わしている。即ち、すでに着用してい

るという静的状態ではなく、発話時点においてその動作・行為が慌ただしく行なわれている最中だということを明示している。(12)では、「いつも」という修飾語は、いつと限定しないという意味を表わしているため、常時和服を着用しているという静的状態を示唆している。〈テイル〉はその動詞の意味によって、動的状態も静的状態も描写することができる。そして、修飾語が来る場合は、その修飾語の意味によって動的状態か静的状態を表現することになる。この点では中国語の“着”と全く同じである。

「こっそり」「ひそかに」「慌ただしく」「慌てて」「急いで」などの修飾語は、動的状态に伴う様子を表わしているため、「着る」という動作的側面を修飾している。〈テイル〉はその動詞的側面を把握し、その動的状态の持続を描写している。一方、「いつも」「常に」「しょっちゅう」「時々」「ずっと」などの修飾語は、ある時間範囲内における静的状態に伴う様子を表わしているため、着用しているという静止した様子を表現している。〈テイル〉はその時間範囲内における静的状態を表わし、その状態の持続を描写している。修飾語の種類によって、動的状態か静的状態かを修飾することになる。この点では、〈テイル〉は“着”と共通している。つまり、この二語は、いずれも把握の対象としての動詞の意味とその修飾語の意味による制限を受けており、動的状態か静的状態による持続表現の文法的機能を果たすことができるということである。

工藤真由美(1982)では、シテイルの基本的意味は「動きの継続」と「変化の結果の継続」だとし、スルとシテイルの対立をもつ動詞は、大きく(A)運動動詞と(B)状態動詞の二つに分けられている(同P55-56)。(A)1動き動詞——歩く、泣く、食べる、読む、言う、たたく、開ける。(A)2変化動詞——開く、死ぬ、消える、行く、出る、太る、結婚する。(A)1はシテイルで「動きの継続」を表わし、(A)2は、シテイルで「変化の結果の継続」を表わす。一方、(B)1スルしかないもの——ある、いる、熱すぎる。(B)2シテイルしかないもの——そびえている、すぐれていると述べている。「着る」「はく」「かぶる」「はおる」「まとう」「脱ぐ」「きがえる」という動詞については、主体の変化を表わしている動詞として分類し、シテイルで基本的には「変化の結果の継続」を表わしていて、(A)2のグループに属していると述べている(同P58)。

また、仁田義雄（1982）では、再帰動詞と呼ばれる動詞として、「着る」「かぶる」「履く」「脱ぐ」「浴びる」などを挙げている（同 P39）。「㉑隣の部屋で着物を着ている」という表現の場合は、進行であり、「㉒かわいい着物を着ている女の子」という表現の場合は、結果の残存であるとし、再帰動詞は主体運動であるとともに、主体変化なのである。この事が、再帰動詞をして、㉑ ㉒のように、「テイル」を進行とも結果の残存とも解させることの起因なのであると述べている（同 P39）。

工藤氏と仁田氏はいずれも再帰動詞として分類されている「着る」「はく」などの動詞について触れてはいるが、工藤氏はこれらの再帰動詞の持つ運動を表わす意味と用法に関しては言及していない。一方、仁田氏は<テイル>の進行（運動）を表わす意味と用法・結果の残存を表わす意味と用法について分析している。ただ、両氏の研究には修飾語による各種の意味と用法への影響等について言及した内容は見られない。

上述のように、これらの再帰動詞は、動的状態を表わす意味と静的状態を表わす意味を持っているため、修飾語による影響も大きく、意味的にも文法的にも<テイル>の状態描写に変化をもたらすものと考えられる。修飾語の有無は、その二重性の認識にもつながり、重視すべき視点だと考えている。工藤氏における「着る」「はく」などの動詞は、結果の残存を表わすのに用いられるとした点は、修飾語の介在を視野に入れていないとの見方であろうと考えられる。

3. 3. 否定形式との関係

3. 3. 1. “着”

“着”は否定形式と共起することができる。たとえば、

(13) a 灯没亮着。(ライトが付いていない)

b 灯没亮。(ライトが付いていない)

(13) a と b は、いずれもライトが付いていないという状態を表現している。(13) の a では、“着”が用いられているため、ライトが付いていないと

いう状態を鮮明に表現することができる。一方、b では“着”が用いられていないため、ライトが付かなかったということを表わしているだけで、付いていないという状態は鮮明に浮かび上がってこないのである。

つまり、“灯没亮着（ライトが付いていない）”は“灯亮着（ライトが付いている）”という表現に対する否定であり、ライトが付いているという状態にはなっていないことを表わしている。否定形式は、ある状態になっていないことを表わすことになるからである。一方、“灯没亮（ライトが付かなかった）”は“灯亮了（ライトが付いた）”という表現に対する否定であり、ライトが付いたという状態になっていないことを表わしている。否定形式は“着”と共に起すかどうかにより、その意味が異なってくることがある。

これと類似した表現には、“钥匙没带着（鍵は持っていない）/钥匙没带（鍵は持っていない）”“门没开着（ドアは開いていない）/门没开（ドアは開いていない）”“帽子没戴着（帽子はかぶっていない）/帽子没戴（帽子はかぶっていない）”“窗户没敞着（窓は開いていない）/窗户没敞（窓は開いていない）”“墙上没挂着地图（壁には地図が掛かっている）/墙上没挂地图（壁には地図が掛かっている）”“桌子上没放着杯子（テーブルの上にはコップが置かれていない）/桌子上没放杯子（テーブルの上にはコップが置かれていない）”などがある。

中国語では、ある姿勢を表わす動詞には、“躺（寝る）”“站（立つ）”“坐（座る）”“跪（ひざまずく）”“蹲（しゃがむ）”“趴（腹ばいになる）”などがある。これらの動詞は“着”と共に起すと、“躺着（寝ている）”“站着（立っている）”“坐着（座っている）”“跪着（ひざまずいている）”“蹲着（しゃがんでいる）”“趴着（腹ばいになっている）”などのように表現することができる。また、それぞれ否定を表わす“没（していない）”“别（しないで）”と共に起すこともできる。

たとえば、“没（していない）”と共に起す場合は、“没躺着（寝ていない）”“没站着（立っていない）”“没坐着（座っていない）”“没跪着（ひざまずいてない）”“没蹲着（しゃがんでいない）”“没趴着（腹ばいになっていない）”などの表現が成立する。

そして、“别（しないで）”と共に起す場合は、“别躺着（横にならないで）”

“別站着（立たないで）”“別坐着（座っていないで）”“別跪着（ひざまかないで）”“別蹲着（しゃがまないで）”などのように、勧誘を表わすことになる。また、上述の“別亮着灯（ライトを付けなくて）”“別敞着窗户（窓を開けていないで）”“别开着门（ドアを開けていないで）”“别戴着帽子（帽子をかぶっていないで）”“别带着钥匙（鍵を持っていないで）”などの表現も成立する。ところが、動作・行為を表わす動詞は、“??别吃着（食べなくて）”“??别看着（見なくて）”などのように共起しにくい⁶⁾。

一方、“不（しない）”も、打消しを表わす表現であるが、普通はそのままでは用いることができない。たとえば、

(14) *表针不动着。（「時計が動かなくなっている」の意）

などがそれである。また、姿勢を表わす動詞も使用することができない。“??不站着（「立っていない」の意）”“??灯不亮着（「ライトが付いていない」の意）”“??窗户不敞着（「窓が開いていない」の意）”“??帽子不戴着（「帽子をかぶっていない」の意）”などは、そのままで自然な表現とは言えない。そして、他の文法的要素に助けを借りて、はじめて適格となる。たとえば、“不站着不行（立っていないとだめだ）”“灯不亮着不行（ライトが付いていないとだめだ）”“窗户不敞着不行（窓が開いていないとだめだ）”“帽子不戴着不行（帽子をかぶっていないとだめだ）”などがそれである。この場合は二重否定の表現となる。

3. 3. 2. <テイル>

日本語の<テイル>は、打ち消し表現と共起できるという点では、“着”と共通している。たとえば、

- (15) ライトが付いていない。
- (16) ライトが付いていなかった。
- (17) 時計が動かなくなっている。
- (18) 子供が泣かないでいる。

<テイル>は打消しを表わす助動詞「ナイ」と共起して、(15) のように<テイ+ナイ>の形で、状態の持続に対する否定を表わすことができる。即ち「ライトが付いている」という状態の否定を表わしているということである。発話者は発話時点において、ライトが付いているという状態にはなっていないことを表現している。この点では、<テイル>は“着”と対応しているものと考えられる。

<テイル>はまた(16)のように、<テイ+ナカッタ>という形で、ライトが付いているという状態を否定することもできる。これは発話前には、ライトが付いているという状態にはなっていなかったという表現であり、歴史的に振り返るとその状態にはなっていなかったという意味を示しているのである。この点では“着”とは大きく異なっている。

中国語では、日本語の過去助動詞<タ>に相当する“了(タ)”は、完了・実現を表わすが、状態の持続を表わす“着”とは共起することができない。“了”と“着”は異なったアスペクト概念を表わしているため、日本語におけるように<持続+否定+過去>という形成の構造にはなれないのである。中国語では“了”“着”などの助詞は、独立性が強く、文法的概念を混合させるようなことは許容されない。

それに対し、日本語では、形態的に発達していることもあり、助動詞としての<タ>と接辞としての<テイル>は互いを排斥せず共起できるため、<テイタ><テイナカッタ>などのような形で、複合的なアスペクト概念を表わすことができる。この点では、両言語は大きく違っている。

また、<テイル>は(17)のように、否定の変化の持続も表現することができる。動いていた時計が動かなくなっているという状態の持続を表わしている。この点は日本語の状態描写の細かさを示している。この点で“着”とは異なっている。“着”は“*表不動着(「時計が動かなくなっている」の意)”のように、否定の変化を表現することができない。否定の変化を表わす場合は“表不動了(時計が動かなくなった)”のように、“了”によって表現することになる。“了”は肯定の変化も否定の変化も表現できるからである。

<テイル>は(18)のように否定の状態の持続を表現することもできる。「泣いていない」は、泣くという状態の持続を否定しているが、「泣かないでいる」

は、泣かないという否定の状態の持続を表わしている。前者はその状態にはなっていないことを表わしているが、後者は、そうならない状態になっていることを表わす。即ち、「泣いていない」は持続の状態の否定、「泣かないでいる」は否定の状態の持続を表わしている。

<テイル>は否定の状態の持続も表わすことができるという点では、“着”と異なっている。中国語では“*不哭着（「泣かないでいる」の意）”のように、打消しを表わす“不”が登場する場合は、“着”は共起することができない。なぜなら“不”は未来の動的状態を表わしており、完全にその状態の持続を否定しているからである。“着”は現在行なわれている動的状態・静的状態の持続を表現するだけで、今後実現したり発生したりする動的状態・静的状態を表現することができないため、“不”との共起が許容されないのである。この点では“着”は<テイル>と大きく異なった点と言えよう。

4. まとめ

両語は多くの同形語の動詞を修飾し、副詞の修飾語の意味によって文法上の二重性を持つ動詞を修飾し、状態の持続の否定を表わすことができるという点ではほぼ共通しているが、具体的な行為などを表わす同形語の動詞も修飾し、否定の状態の持続を表現することもできるという点では<テイル>は“着”と大きく違っている。

“着”は、抽象的な行為を表わす同形語の動詞を修飾することができるが、具体的な行為を表わす同形語の動詞は修飾することができない。二重性を持つ動詞に対しては、様々な修飾語と共起することによって、その動的状態と静的状態を表現することができる。状態の持続の否定は表現できるが、変化の否定の持続や否定の状態の持続は表現することができない。

<テイル>は抽象的な行為を表わす同形語の動詞と具体的な行為を表わす動詞のいずれも修飾し、広い視野を持っている。二重性を持つ動詞に対しては、その静的状態を表現することができるし、また、修飾語によってその動的状態も表現することができる。さらには、状態の持続の否定、変化の否定の持続や否定の状態の持続のいずれも表現することができる。それで、様々な表現において機能の広がりが見られる。

注

- 1) 本研究では、中国語の考察語は“ ”、日本語の考察語は< >で示す。以下同じである。
- 2) 本研究と直接関係しない論考については取り上げないこととする。以下同じである。
- 3) 費春元（1992）では、“穿（切る・はく）”“戴（かぶる）”などの二重性のある動詞については、動態動詞と静態動詞として分類しているが、その分類の根拠は余り示していない。詳しくは費春元（1992）を参照されたい。
- 4) ここでは、文法上の二重性について修飾語を取り上げている。“着”と修飾語との関係については更に考察する必要があると考えている。今後の課題とする。
- 5) <修飾語+動詞+テイル>という構造については今後の課題とする。
- 6) 侯学超（1998）では、“着”と否定形式との関係については、参考になる内容を示している。詳しくは侯学超（1998）を参照されたい。

参考文献

中国語

- 北京大学中文系 1955・1957 级语言班编（1982）《现代汉语虚词例释》商务印书馆
- 戴耀晶（1997）《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社
- 房玉清（1992）《实用汉语语法》北京语言学院出版社
- 费春元（1992）「说“着”」『语文研究』第二期
- 侯学超（1998）《现代汉语虚词词典》北京大学出版社
- 金立鑫（2004）「“着”“了”“过”时体意义的对立及其句法条件」《第七届国际汉语教学讨论会论文集》北京大学出版社
- 李敏（1998）「现代汉语主宾可互易句的考察」《语言教学与研究》第四期
- 刘一之（2001）《北京话中的“着”（zhe）字新探》北京大学出版社
- 吕叔湘主编（1984）《现代汉语八百词》商务印书馆
- 石毓智（2006）「论汉语的进行体范畴」《汉语学习》第三期
- 王学群（2007）『中国語の“V着”に関する研究』白帝社

张黎 (2012) 《汉语意合语法研究——基于认知类型和语言逻辑的建构》白帝社

日本語

奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育大学
国語国文』8

金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のア
スペクト』むぎ書房

工藤真由美 (1982) 「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13 卷 4
号

寺村秀夫 (1982・2003) 『日本語のシンタクスと意味』II くらしお出版

中畠孝幸 (1999) 「結果を表す構文について：テイルとラレテイル」『三重大学日本
語学文学』10 号

仁田義雄 (1982) 「動詞の意味と構文——テンス・アスペクトをめぐって——」『日
本語学』1 卷 2 号

吉川武時 (1976) 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編 (1976) 『日
本語動詞のアスペクト』むぎ書房

吉川妙子 (2012) 『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房

謝辞：本研究の日本語の表現については、菊川國夫先生にご指導を頂きました。こ
こに深く感謝の意を表したいと思います。なお、本研究は平成 29 年度教育研究重
点経費を受けてまとめた成果の一部である。関係各位に厚くお礼を申し上げる次第
です。